

直管 ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管 ゴム輪形耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管

水道用ビニルパイプ

日本工業規格 JIS K 6742

直管 **VP** **HI-VP**



最高使用圧力(静水圧)	
VP	0.75MPa
HI-VP	

寸法表

(単位: mm)

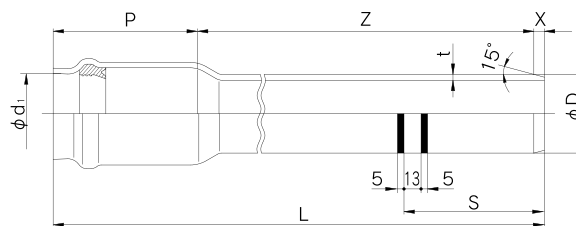
呼び径	外径			厚さ		長さ		1m当たりの参考質量(kg/m)	
	基準寸法	最大・最小許容差	平均許容差	基準寸法	許容差			VP	HI-VP
13	18.0	±0.2	±0.2	2.5	±0.2	4,000	—	0.174	0.170
16	22.0	±0.2	±0.2	3.0	±0.3	4,000	—	0.256	0.251
20	26.0	±0.2	±0.2	3.0	±0.3	4,000	—	0.310	0.303
25	32.0	±0.2	±0.2	3.5	±0.3	4,000	—	0.448	0.439
30	38.0	±0.3	±0.2	3.5	±0.3	4,000	—	0.542	0.531
40	48.0	±0.3	±0.2	4.0	±0.3	4,000	5,000	0.791	0.774
50	60.0	±0.4	±0.2	4.5	±0.4	4,000	5,000	1.122	1.098
※ 65	76.0	±0.5	±0.2	4.5	±0.4	4,000	5,000	1.445	1.415
75	89.0	±0.5	±0.2	5.9	±0.4	4,000	5,000	2.202	2.156
100	114.0	±0.6	±0.2	7.1	±0.5	4,000	5,000	3.409	3.338
※ 125	140.0	±0.8	±0.3	7.5	±0.5	4,000	5,000	4.464	4.370
150	165.0	±1.0	±0.3	9.6	±0.6	4,000	5,000	6.701	6.561

- (注) 1. 最大・最小外径の許容差とは、任意断面における外径の測定値の最大値及び最小値(最大・最小外径)と、基準寸法との差をいう。
 2. 平均外径の許容差とは、任意の断面における相互に等間隔な2方向の外径の測定値の平均値(平均外径)と、基準寸法との差をいう。
 3. 参考にした1m当たりの質量は、管の寸法を基準寸法とし、管に使用する材料の密度を硬質ポリ塩化ビニル管は1.43g/cm³、耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管は1.40g/cm³として計算したもので規格の一部ではない。
 4. 長さ許容差は±%mmとする。
 5. ※は塩化ビニル管・継手協会規格品です。

水道用ビニルパイプ

日本水道協会規格 JWVA K 127・K 129

ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管 **VP** ゴム輪形耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 **HI-VP**



最高使用圧力(静水圧)	
VP	0.75MPa
HI-VP	

寸法表

(単位: mm)

呼び径	挿口及び直管部						受口部				有効長	全長	参考重量 (kg/本)			
	外径D			厚さt	面取り幅	標線	内径di			受口深さP			Z	L	許容差	VP
	基本寸法	最大許容差	平均許容差				(最小)	X	S	基本寸法	最大許容差	平均許容差				
50	60.0	±0.4	±0.2	4.1	8	107	60.9	±0.9	±0.6	110	±5	5000	5118	±30 -10	5.8	5.7
75	89.0	±0.5	±0.2	5.5	11	120	90.2	±1.2	±0.7	120	±5	5000	5131	±30 -10	11.5	11.3
100	114.0	±0.6	±0.2	6.6	13	132	115.3	±1.2	±0.7	130	±5	5000	5143	±30 -10	17.9	17.5
■ 125	140.0	±0.8	±0.3	7.0	14	138	141.4	±1.4	±0.8	135	±5	5000	5149	±30 -10	23.5	23.0
150	165.0	±1.0	±0.3	9.0	18	152	166.6	±1.4	±0.8	145	±5	5000	5163	±30 -10	35.2	34.5

- (注) 1. ■は塩化ビニル管・継手協会規格JPPFA AS31規格品です。
 2. 最大最小外径の許容差とは、任意断面における外径測定値の最大値又は最小値と基本寸法との差をいう。
 3. 平均外径の許容差とは、任意断面における円周を円周率3.142で除した値又は相互に等間隔な2方向の外径測定値の算術平均値と基本寸法との差をいう。

パイプ

継手

フランジ・パッキン

関連製品・副資材

各種パイプ・継手

技術データ・資料